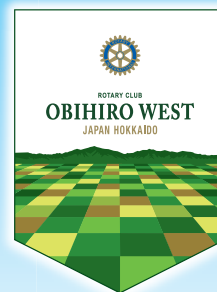




Since 1972.2.24

# 帯広西ロータリークラブ 第1964回例会 2012.9.13 会報



■RI第2500地区テーマ■

心と心、笑顔と笑顔、今奉仕のために行動を起こそう



■クラブ・テーマ■

学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ

## 会長報告 「9月会長メッセージ」

次ページに掲載

## 委員会報告 なし

## ニコニコ献金 金尾会員より披露

佐々木嘉晃会員 今日の例会は健康増進委員会が担当させていただきます。

中川 芳明会員 本日の卓話を命じられました。

久保 忠正会員 先週、米山奨学の寄付をお願いしましたところ、早速の協力ありがとうございました。

堀 修司会員 9日に船釣りに行き、初めて鮭を釣り上げました。

## 例会出席状況報告

7月 会員数 64名 例会数 4回 出席率 87.0%

8月 会員数 64名 例会数 4回 出席率 90.2%

## プログラム

### 健康増進委員会担当例会

#### 「脂質異常症と薬」

中川芳明会員

脂質異常症とは生活習慣病のひとつで、血液中の脂質のバランスが崩れている症状です。放っておくと狭心症、心筋梗塞、脳梗塞などを発症します。自覚症状がなく、「沈黙の病」とも言われ、知らないうちに進んでいき、なった時には遅いという怖い症状です。

遺伝性もあるが、暴飲暴食、油ものを多く食べる、ほかの病気からの2次的な原因、加齢などによるものです。動脈硬化性の脳梗塞、心疾患の死亡率は、癌による割合に匹敵します。

日常の健康診断が大事で、最近では頸動脈エコー検査により、全身の動脈硬化を想定できるまでになっています。血液データを見て、自己コントロールする、正常値をこえた場合には薬によるコントロールをすることが必要です。

原因となるコレステロールは、実は食べ物から生じるのは30%で、あとの70%は勝手に体内で出来てしまうものです。

それだけに日常的に留意が必要です。やはり油ものなど食べ物、寝不足、喫煙、ストレス、運動不足の解消が大事になります。

「フレンチ・パラドックス」という言葉があります。フランス人は赤ワインをよく飲みますが、それによって冠動脈疾患が少ないと言われる。

学術的な検証はされていないが、赤ワインに含まれるポリフェノールに効果があると言われていました。他にはコーヒー、黒ウーロン茶も臨床検査によって効果が認められているようです。油ものを多く食べる人には、いくらか効果があるかもしれません。

## 2012年 9月 新世代のための月間

ニコニコ 9月13日 8,000円  
献金 累計 206,000円 (9月13日現在)



プログラム「脂質異常症と薬」



会長 川田 章博  
幹事 大友 広明

副会長 岡田 武穂  
副会長 古田 敦則

会場監督理事 上垣香世子  
プログラム委員理事 河西 智子

発行：広報委員会  
委員長 鈴木 享 (副) 本田美喜男



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

# 9月の会長MESSAGE

今年度川田会長は、毎月月頭に「会長メッセージ」を会員みなさんにお伝えします。



## 会長報告

### 川田章博会長

来週20日の例会では、(財)ロータリー米山記念奨学会の事務局長坂下博康氏を迎えて、お話を伺う予定です。改めて、米山記念奨学について少し学んだり考えたりしたいと思います。

日本のロータリーの創始者は米山梅吉さんです。中学中退だが、アメリカに8年間留学され、その後三井銀行に入行し、三井信託銀行の初代社長となられた人です。彼は留学中にダラス・ロータリークラブと出会い、その経験から1920年に日本初のロータリークラブである「東京ロータリークラブ」を設立し、初代会長となりました。「日本はこれから平和への貢献をしなければならない」と訴え続けましたが、その思いを引き継ぐ形で1953年、東京ロータリークラブが米山さんの名前を冠した奨学会プログラムを進めて、2名の奨学生を招聘しました。その後、全国各地のロータリークラブがその基本的な考え方に賛同して発展したものが、現在の米山記念奨学会です。

地区毎の奨学金寄付順位をみると、2012年6月現在、1位は2650地区(福井・滋賀・京都・奈良)で1年間で9,507万円ですが、当2500地区は1,771万円です。34地区中31位、貢献度は低いと言わざるを得ない。

個人平均でみると、全国平均14,624円に対し、2500地区は8,028円です。これは地区内に大学が少なく、米山奨学生を招くことが少ないことによる理解度の問題なのかもしれない。

帯広西クラブの寄付状況は昨年度、普通寄付が一人当たり2,000円、特別寄付が650千円、合計767千円ですが、市内5クラブ中3位、一人当たりでみると4位です。

市内他クラブの状況は

帯広RC	普通	4,000円	特別	1,350千円	合計	1,552千円
帯広北RC	普通	3,000円	特別	650千円	合計	839千円
帯広東RC	普通	2,000円	特別	505千円	合計	583千円
帯広南RC	普通	3,000円	特別	508千円	合計	712千円

となっており、今後において普通寄付の金額について検討の必要があるかもしれませんが、次年度以降、配慮と理解を頂ければと思います。

日本のロータリー活動の3本の柱は、1)ロータリー財団 2)ロータリーの友 3)米山記念奨学会ですが、いずれも日本ロータリーとは切り離れた財務・運営によるものであり、地区独自の取り組み・活動となっております。昨今、全国的に寄付が少なくなっており、そのため招聘する奨学生も800名から今年度は700名に減少するという状況ですが、是非今一度、米山記念奨学に理解を深めて頂きたいと思えます。



## 日本ロータリーの父 米山梅吉氏



日本のロータリーの創始者。よって、日本ロータリーの父[Father of Rotary in Japan]と称されます。1868年、大和国高取藩の和田氏の三男として東京に生まれ、父の死後、母の故郷の静岡県長泉に移り、中学生まで、ここで過ごします。1883年上京し、1887年、米山家に養子として入籍。同年渡米し、学問を修め1895年帰国後、三井銀行に入行。

その後1918年の渡米中、ダラスロータリークラブ(RC)のロータリアンになっていた福島喜三次の紹介により、彼はロータリークラブと出会いました。そして帰国後の1920年、米山梅吉は東京RCを創



立し会長に就任しました。幹事は福島喜三次です。これが、日本のロータリークラブの第一歩となりました。

その後、彼は1924-26年度国際ロータリー(RI)のスペシャル・コミッショナー、1926-27年度RI理事(日本人初)、1928-31年度第70地区(当時)ガバナーなどを歴任しています。

1952年、東京RCは彼の功績を記念し、日本で学ぶ外国人留学生に対して支援を行う「米山奨学制度」を構想しました。

現在の「ロータリー米山記念奨学会」です。彼は1946年4月28日、長泉にて逝去。

みんなで作ろう

# 帯広西クラブの広場

山本範之会員の作品

## 「1976年パリ事件」

1本の白ワインに、驚きの物語がありました。歴史は面白い!!!

村上春樹のエッセイを読んでいると、カリフォルニアのレストランで「牡蠣とシャトー・モンテリーナのシャルドネがあれば至福…」興味津々、ネットで、このワインを検索してみると「1976年パリ事件」が出てきた。

この事件は、フランス・ボルドーを始めとするワイン関係者達が「自分達に勝るワインなど、この世に存在する筈がない」と頑なに信じていた時代に、パリで有名なワインスクール主宰者のイギリス人が、カリフォルニアワインの質がどの程度まで向上しているかを理解する為に提唱して品評会が開催された。

審査員には、フランスを代表するワイン専門家のみが選ばれ、最高峰のフランスワインをエントリーして、目隠し品評会（ブラインドテイस्टィング）で行われた結果、赤白共にカリフォルニアの勝利、フランス勢が大敗を喫した。

第1位に輝いたワインは、共に並んだフランスワインの四分の一程の価格で取引されるに過ぎず、「安物」のイメージがあった。

このニュースは世界を駆け巡り、誇り高きフランス至上主義の誰もが予期しえぬ衝撃的事態となり、アメリカでは、二つのワイナリーに行列ができ、すぐに売り切れ状態になったほどである。

無名産地の新興ワイナリーでも、研鑽を重ねると、最高のフランスワインをしのぐことができる、このことは、世界全体の技術水準を高めることになった「事件」である。

増井信也会員の作品

## 「北海道マラソン 完走！」

先日札幌で行われた北海道マラソンに、妻と義理の父と一緒に出場してきました。今回で4回目。いつも北海道マラソンの日は暑く、ここ3年連続で気温30度の中でのレース。昨年は、暑さとアルコールの影響で28キロ地点でリタイヤ。

今年はそのリベンジであったのです。

昨年までの昼12時10分スタートが今年から午前9時に変更、今年は涼しいうちのスタートのはず。ところがスタート直前のアナウンスで、既に気温29度と聞いてめまいを感じながらのスタートとなりました。

序盤は極力ペースを抑えながら…。予想通り暑さとの戦いで、給水所では頭から水をかけて体を冷やしながら自分のペースを維持。昨年リタイヤした28キロ地点を過ぎた時に「今年に行けるかも」と…。



でもやはり夏のフルマラソンは甘くはありません。35キロ地点で吐き気が出現。脱水症状の始まりです。

塩飴をなめ、水で首や頭を冷やしながらペースを落として走っていると、徐々に楽になっていきました。

途中救急車で運ばれているランナーもいましたが、なんとかゴール。久々の感動を味わうことができました。

走っている途中は毎回「何でこんなに苦しいのに走ってるの?」と後悔するのですが、終わると「次はもう少し早く走りたいな」と思うのでした。





## 札幌西ロータリークラブ

- 訪問者／神田龍一会員
- 訪問日／平成24年9月11日
- 例会場所／札幌三越 4F
- 会員数／約50名(うち女性会員5名)
- 創立年／1960年
- ガバナー／5名輩出
- 2012～13年度／会長 大越 克己  
幹事 田中 昭次

### 川田会長、プロジェクト特別委員会 神田委員長に代わってお願いします



今年度のクラブテーマは「学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ」です。このテーマの実践に川田会長、大友幹事が精力的に取り組んでおります。「訪ねようロータリークラブ」では、神田委員長が今回、率先して他クラブを訪問してバナー交換をしてきました。

川田会長、神田委員長に代わってのお願いです。

みなさん、出張や旅行の際には是非、全国のロータリークラブを訪問されて、沢山のバナー交換をしてくださるよう、お願いいたします。

### 広報委員会からのお願いです



広報委員会では、会員みなさんに「会報」への登場をいただくため、「原稿」をお願いしておりますが、現在、協力いただいた方が10名ほどの状況です。日々お忙しい中、恐縮ですが、何卒趣旨をご理解いただき、“友情をもって”原稿提出のご協力をいただきたくお願い致します。

原稿の内容はまったく自由です。ロータリーのことでも、趣味のことでも、日頃考えていることでも、何でも結構です。

受付は随時、委員長鈴木、副委員長本田にご提出ください。